

令和7年度 第3回加古川養護学校運営協議会 議事録

1 日 時：令和8年2月18日（水）15：30～16：30

2 場 所：加古川養護学校相談室

3 参加者：田上 哲也 様（社会福祉協議会 地域福祉推進課長）

松尾 玉彦 様（上荘町町内会連合会）

足立 昌夫 様（学校医）

橋本 正巳 様（兵庫大学）

浅田 武成（校長） 山口 望美（教頭）

木方 康子（教務） 藤田好美（学校事務）

4 議事録

1 学校長あいさつ

2 （1）学校関係者評価についての説明（教頭）

（2）学校自己評価結果分析について（教頭）

（3）協議（学校関係者評価）

全体的に適切に評価されている。

【自立する能力の育成】

・オンリーワンの指導をされている。（町内会連合会）

・ICT機器を使って相手に通じることが大事。機器の使用の仕方が重要。（大学教授）

【交流学习・体験学習の充実】

・ここでいう交流とは何か。（大学教授）

→居住地交流だけではなく、他学部との交流等も含めている。（教頭）

・居住地校交流で行った先でお客様になっていないかが重要。その子どもに応じた交流の在り方を検討する必要がある。また、兵庫大学との交流については、学生の気づきにもつながり意義深いものとなった。（大学教授）

【進路指導の充実】

・先を見据えた教育を段階的にすすめてほしい。（町内会連合会）

・本校のような重度肢体不自由の子どもたちにとっての進路指導等はどのように行われているのか。（学校医）

→進路と聞くと、高等部卒業後というふうに捉えてしまいがちであるが、そうではなく日頃の入組がすべて社会参加につながるという認識で行うことが重要。幼稚部から日常的に人とのつながりを持たせ、表現の仕方を学ばせることが進路つながっていく。ベテラン教員は理解できている人もいるが、そのような認識が低いことが評価に表れていると思われる。（教頭）

・どの子がどこに行ったか等進路先の資料がないとわかりにくい。今やっていることが社

会で充実感があるか、具体例がないと評価できない。(大学教授)

【安心・安全な学校づくり】

- ・災害訓練を含め体制を強化してほしい。(町内会連合会)
- ・安全安心に対して職員の改善の余地とは？(学校医)
→医ケアマニュアルの見直し、災害については避難訓練で検討。
人工呼吸器の子どもが2階に多かったため、災害時のことを考え今年度は1階へ。
(教頭)
- ・病院等の避難訓練を参考にしてみてもどうか。町内会でも初めて避難訓練を行った。訓練をすると課題が出てくる。まずやってみることが大事。(町内会連合会)
- ・ここは災害がおきても大丈夫な場所か。(学校医)
- ・行政は対策を講じてくれているのか。(社会福祉協議会)
→市には相談している。屋上に発電機を置くことができれば。一泊できる水分や飲料はあるが、課題は山積み。(校長)
- ・加古川養護学校は看護師・教員は非常によく頑張っている。足立先生がいらっしゃることも心強い。(大学教授)

【教職員の資質向上】

- ・他校との交流を深め、スキルアップを。他校の実践等知る機会はあるか。(町内会連合会)
→県下肢体不自由校の公開研究会や、県内のそれぞれの係会等で情報交換を行っている。(教頭)
- ・さらに来年度は充実させていく。教育の意識改革で子どもの気づきを増やす。
教員の年齢によって意識の違いがあるのを危惧している。資質向上のキーマンとなる教員の養成が課題。(大学教授)

3 その他

- ・加古川市学校運営協議会の設置及び運営に関する要綱(案)について
- ・次年度委員について

<次年度第1回学校運営協議会の予定>

日 時	令和8年4月15日(水) 15:30(予定)
内 容	委嘱状交付 学校運営の基本方針について